

田口 正一 氏 ～畜産大賞の特別賞に輝く～

畜産大賞は、社団法人中央畜産会が全国段階の各方面の優秀畜産関係表彰の最高峰として、平成10度に創設しました。

今年度は経営部門、地域畜産振興部門、研究開発部門で全国各機関・団体から推薦のあった39点の優秀事例の中から、中央審査委員会は、経営業績を高く評価し本協会が推薦した田口正一氏を審査員特別賞に決定し、平成20年2月4日東京都内「虎ノ門パストラル」で挙行了業績発表会・表彰式に出席した夫妻に、主催者から賞状とトロフィーが贈られました。

今年度の畜産大賞は10回の節目で、本県では初受賞でありました。

▼田口正一氏畜産大賞・特別賞受賞



田口氏の経営で、中央審査委員が高く評価した点は次の内容でした。

借金ゼロに向って、低コスト生産と品質向上の経営努力を続けて高い成果を上げていることです。その方法を幾つか紹介します。

〈低コストの取組〉

1 施設投資は自己資金で賄って極力少なくし100%の自己資本を蓄積したことです。

昭和51年に近代化資金の融資を受けて規模拡大を図ったが、その償還元利金が多額で経営を圧迫し苦しい経営が長く続いた苦い経験から、以後は自己資

金で古電柱を用いての低コスト牛舎建設や機械を共同購入するなど極力投資額を少なくしています。

2 粗飼料は低コストで100%自給を可能にしていることです。

ア 集落内で組織した転作組合が栽培している9haの白ピエを契約により収穫しています。

イ 自作地と肥育仲間の水田10haから稲わらを取集しています。

ウ 信濃川河川敷1.8haで牧草を収穫しています。

粗飼料の自給によって、粗飼料費は全量購入依存した場合の1/4程度と計算されます。

これらの収穫作業は、すべて肥育仲間と2家族で行っています。

3 日常的に記録・記帳を行って、無理・無駄のない合理的な経営を行っています。

〈品質向上の取組〉

1 過去のデーターを基にして、素牛の導入や飼料の給与を行っています。

2 飼料給与後、牛舎内をまわり、喰いの悪い牛や群になじめない牛をチェックして繋ぎ房に移動させるなどして個体管理に努めて落ち物を少なくしています。

3 日常の牛舎内清掃や入口に消毒槽を設置して予防衛生に気を配っています。

〈後継者対策〉

現在、後継者が就農して飼養規模の拡大も望めるなかで、高水準で経営の継続が見込めることや地域後継者の育成にも力を注いでいることです。

▼集団転作田における粗飼料生産（白ピエの刈り取り）

